



無機材との組み合わせによる高性能ガスケット・パッキンの開発

ガスバリア性能を有する粘土フィルム(高温 850 以上)と膨張黒鉛を組み合わせた(構造がファンデルファースであり非常にどちらも似ている点に注目)高性能ガスケット・パッキンの開発(無機材との組み合わせ)

本 業 の 動 向 に つ い て

膨張黒鉛を主原料としたガスケット、パッキンの製造販売。業況としては主な顧客である電力関係が東京電力の重大事故以来需要が少なくなり苦慮している。したがって石油、化学、製鉄、火力発電所向けに営業活動を行なっている。

公 設 研 究 機 関 と の 連 携 事 業 に つ い て

連携先公設研究機関の名称

独立行政法人産業総合技術研究所東北センター
コンパクト化学プロセス研究センター

所在地

宮城県仙台市宮城野区若竹 4 - 2 - 1

連携内容

ガスバリア性能を有する粘土フィルム(高温 850 以上)と膨張黒鉛を組み合わせた高性能ガスケット・パッキンの開発(無機材との組み合わせ)。

連携した動機やきっかけ

粘土材料及び膨張黒鉛材料の構造がファンデルファースであり非常にどちらも似ている点に注目したことである。

連携の効果

今回連携を行った産総研の方々の我々企業に近い考え方と、名誉を棄てた取り組みが非常に良かった。自社で製品開発して上梓していくのは、上場企業であればブランド力のできるものであるが、中小零細企業などは公設機関などとの連携により、ブランド力を借りることで開発製品の信頼性などを得ることが出来る。また、連携開発により会社の知名度も上がり、開発製品のイメージアップになる。

連携して最も効果のあったこと

開発製品を商品化でき、即、売り上げに寄与できた。また、NEDOのバックアップにより新規顧客も数多く出来たこと。

連携して最も困難だったこと

宮城県仙台市と大阪府ということで地理的に遠かった為に経費がかさんだこと。経理処理が非常に複雑であること。

連携するメリット・デメリットについて

メリットとしては、木目細かなアドバイスが出来ること。公に顧客に認めてもらえること。

デメリットとしては、経費が掛かること(利益の出せる企業で無いと無理である)。

連携に際しての注意、アドバイスなど

必ず結果を出すこと(3年以内)に向かって常に双方が努力、助け合う精神を失わないこと。

公 設 研 究 機 関 と の 連 携 で 行 政 に 望 む 支 援

経理事務の簡素化及び報告書作成の簡素化を望む。

会社概要

設 立 : 1989 年(平成元年)12 月

資 本 金 : 2,000 万円

従業員数 : 43 名

U R L : <http://www.japanmatex.co.jp>